



左：産室・追込所及び耕馬舎 右：牧牛舎

【ほっかいどうだいがくのうがくぶ(きゅうとうほくていこくだいがくのうかだいがく)だいにのうじょう】

北海道大学農学部 (旧東北帝国大学農科大学) 第二農場

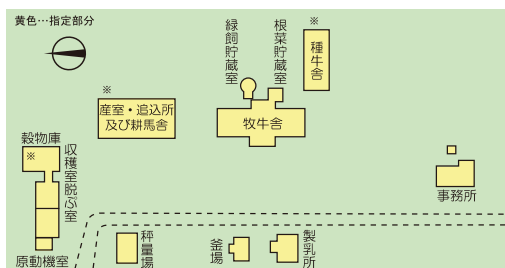
モデル・バーンとコーン・バーン

第二農場は、それまで放牧場であった現在地に、明治42(1909)年から大正元(1912)年にかけて、諸施設を移築・新築し、酪農経営の実習施設としたものである。

この農場は、北海道酪農の模範農場として、指導者の養成や農業技術の向上に役立った面が高く評価されている。

明治10(1877)年に建築された産室・追込所及び耕馬舎は、旧札幌農学校教頭のクラークが構想し、母校のマサチューセッツ農科大学の家畜房などになってW.ホイラーが設計し建てた札幌農学校模範家畜房(モデル・バーン)を移築したものである。

また、同年に建築されたバルーン構造の穀物庫は、ホイラーの設計によるといわれる第二農場玉蜀黍庫(コーン・バーン)を移築したものである。第二農場では9棟の建築物が重要文化財に指定されているが、これらの各建物は、建築年代により構造・工法に違いがあり、建築史上の価値は高く、当時の酪農経営の形態を知る上でも、貴重な遺構である。



すぐれた景観

各建物は、いずれも実用的な農場建築で、単純だが骨太なデザインを採用している。また、モデル・バーンの妻面には牛頭の飾りをつけたり、外壁に柱形・梁形・円弧形筋違の構造風装飾を取り入れるなどの工夫がなされている。また、木造、石造り、及びレンガ建築がお互いに調和し、景観にすぐれている。

- **建築年代:** 明治 10(1877)～明治44(1911)年
- **指定年月日:** 昭和 44(1969)年 8月 19日
- **所在地:** 札幌市北区北 18・19 条西 7・8 丁目
北海道大学構内
- **お問い合わせ**
国立大学法人北海道大学総合博物館 ☎ 706-2658
- **観覧形態:** 一部内部観覧可
- **観覧時間:** 10 時 00 分～16 時 00 分
- **休館日:** 11 月 4 日～4 月 28 日及び 4 月 29 日～
11 月 3 日の第 4 月曜日
- **観覧料:** 無料
- **アクセス**
地下鉄南北線「北18条」2番出口より約680m
JRバス・中央バス「北18条西5丁目」

